

一度にすべてを公開しても、皆さんには到底理解できないでしょう？
誰にでもご理解いただけるよう、要点技術を順次開示しています。

万博会場をカイロ灰で浄化するとか、ワカメで微細プラスチックを回収するとか、ナノプラスチックは獲れるか。など今頃幼稚過ぎませんか？
POLY-GLU は 13 年前から、大規模水域の浄化に取り組んできました。
世界中で施工、失敗も繰り返してきた苦勞の幾つかをご覧ください。
http://poly-glusb.jp/VIDEO4/ENG_WEBVIDEO_PONDPURIFICATION.mp4

既存業者、学識経験者の皆さん、余りにも視野が狭すぎます。
私達の技術は、小規模水域では手動で、大規模水域の場合は器材、船舶を利用して、水底の浮泥、水中の微細プラスチック、重油、無機有機悉く回収します。
しかも水底の生息物、砂は残したままです。水上に回収した不純物は再利用も可能です。

現在、浄化幅 150m、水深 20m、浄化速度毎時 300m の実用化を進めています。このため、上場企業も参画して、専門 3 社が JETRO の支援も仰ぎ、和歌山県に海洋研究所を設ける事になりました。同時に大阪営業部・技術研修所も 4 月 1 日新たに開設します。

気がかりな国難！

福島 ALPS 処理水中には、ストロンチウム、セシウムがまだ残留しているよ！無責任な関係者が「大海、大気中に放出すれば比較的安全なトリチウム」に、国民の関心を引き付けているのだ。タンクから汚染水を抜き取り「公開測定すれば、すぐに真実は解る」。

私は ALPS の構造、能力を誰よりも熟知している、POLY-GLU は完璧に処理できているよ！ 政府機関になら無償で技術提供します。

16, Mar, 2021 小田兼利